

## 部員11名から最強チームへ

### 第10期 貴島幸一

千歳ラグビー部を十期が九期から引継いだのは、昭和27年(1952年)11月、高校2年の時だった。

9期のチームは、3年が6名で半数以上が1、2年で赤根キャプテンが本田FWリーダーと山田BKリーダーと共に名門千歳ラグビー部の名に恥じないチームに仕上げたが東京の覇権を奮回するにいたらなかった。

我がチームは充分力をつけ東京代表となり八期と九期の屈辱を果たさなければならなかった。

新チームは部員11名でメンバーは十期が、安部、伊集院、石塚、貴島、齋木、菅井の6名で、十一期が、遠藤、津曲、島崎、松下、吉田の5名だった。

キャプテンに石塚、FWリーダーに伊集院、BKリーダーに貴島、マネージャーに齋木を選び、新チームづくりに入った。まず第一の問題は部員が11名ではチームにならず試合が出来ないことだった。

部員を増やさなければならなかった。幸いにして毎年ラグビー部主催で、校内の各学年、各クラスごとにラグビー選手をつのり、1年の部と2、3年の部に分けてクラス対抗試合をやっていたので、一般の生徒でもラグビーが出来る者が多かった。その中から優秀な人を選んでラグビー部に入ってもらい、休部中の者には復帰してもらおうよう「伝統ある千歳のラグビーを一緒にやり、東京代表になり全国大会に出場しよう」を合言葉に部員全員でこれほと思う友人を一生懸命説得して廻った。まず休部していた渡辺と湯浅が復帰した。つづいて十期から伊藤、小倉、片倉、梨本、早野、水野の6名と十一期から五十嵐、川崎、中村の3名が入部した。個性豊かな猛者連だった。

部員が22名揃った。サー練習だ。新入部員も下級

生もラグビーをやるときは同等だ。全員で強いチームをつくるには「どうすればよいか」お互いに考え話し合い、先輩の意見を聞き、我々のための練習方法を決めた。

千歳ラグビー部伝統の集合練習を柱に練習の始まる前と、終わった後と、休日に自分のウィークポイントを強化するため体力強化のトレーニングと基本プレーを反復訓練する自由練習をして力不足を自分自身で克服することにした。

11月中旬、全国大会をめざし総員22名、猛特訓を開始した。

集合練習が終わり暗くなっても自由練習を続ける者が多かった。駅の前を這って登り、手摺にすがって降りたことも懐かしい。

昭和28年正月、今年はやるぞと決意を固めた。1月25日から「東京高校ラグビー新人戦」(記事-A)に出場し練習の成果を試した。

- 一回戦 千歳41-0日大三高
- 二回戦 千歳3-16大泉
- 三回戦 千歳35-0明治学院

日大三高と明治学院は順当に勝ったが、大泉戦は終始大泉陣内で試合を進めたが日比谷に僅かなスキをつかれ苦杯をなめた。ゴール前の攻とバックアップが甘かったが、2月の東京高校ラグビー選抜対抗戦(記事-B)に選抜された。

1日目 千歳9-3青学

雪中戦で全員軍手をして臨みキックとドリブルで青学を蹴散らした。

2日目 千歳9-6成蹊

キックアンドラッシュで圧倒。この結果、保善が3勝で優勝し、千歳と豊多摩が2勝で準優勝した。

4位城北、5位青学と大泉、7位日大二高、8位成蹊と法政一の順位だった。

又、新人FWの巨漢片倉の活躍は注目された。

●4月に新入生の椎谷が元気一杯に入部したが、残念ながら早野、水野、湯浅が退部し、新年度のスタートは部員20名になってしまった。早野の退部は痛かった。

[憲法発布記念大会]

二回戦  
準々決勝  
準決勝

[関東高校ラグビー選抜大会] (記事-C)

千歳48-0宇都宮高

思いきったゆさぶりで宇都宮高を振り切り、大勝した。

[夏合宿]

8月3日から一週間、学校で体操部と合同合宿をした。部員15名、OB7名と森川先生が参加した。朝6時15分起床から1日7時間10分の練習だ。

朝はマラソン、午前中はランパスとダッシュ、午後はセットプレーと練習マッチだ。

三日目に早稲田のラグビー部の人達と練習マッチをしたが歯が立たなかった。早稲田ラグビーのゆさぶり、ライン攻撃、ラインディフェンスなど考えるラグビーを教わった。

四日目に伊集院のおやじさんがコーチに来てくれた。基本プレーの再チェックだ。

- (1) キックはスパイクが脱げるほど強くボールを蹴れ。
- (2) パスは止まってするな。トップスピードでパスをしろ。そして相手がキャッチしやすいところにパスをしろ。
- (3) パスをうけるとき、一歩踏み込んでトップスピードでパスをうける。
- (4) 浮いているボールは相手より一歩先に体でとりに

行け。

(5) タックルは相手を向側に倒せ。

(6) チャンスとピンチは一生懸命走れ。そしてキックアンドラッシュ戦法、ドリブル戦法、スクラムトライの練習だ。

五日目、OBが鬼に見えてきた。俺達を殺す気か、何クソと頑張った。

六日目、昨夜は寝言の大合唱だった。ドリブルセービングと生タックルの練習だ。汝男ならタックルの味を知れ、部員募集ポスターが目浮かぶ、勇気なき者は去れだ。やれば出来る。出来た。

七日目、キツかった合宿も終わった。晩餐会に田中校長と西尾先生をお招きし、大いに食べ、石塚キャプテンの音頭で部歌を合唱し締めた。学校での合宿なので食事のことが心配だったが、3年の斎藤さん、村田さん、2年の一宮さん、桜井さんが賄を引受けてくれ、家の食事より美味しくボリュームのあるものを食べさせてくれたので楽しい食事が出来た。部員一同大感謝だ。ありがとう。

[明治ラグビー部の指導を受ける]

夏合宿後、伊集院のおやじさんから、北島先生にお願いし、明治ラグビー部と一緒に練習させてもらえるようになり、毎日八幡山のグラウンドに通った。

最初に明治の新入生チームとの練習マッチに勝ってしまった。それから3軍から2軍と練習マッチをさせてもらい自信をつけた。大学生の練習について行けるよう、迷惑をかけないように一生懸命だった。

[団体ラグビー東京予選] (記事-D)

二回戦 千歳58-0江戸川高  
準々決勝 千歳12-5城北

FWが活躍、石塚がドロップゴールを決めて観客を驚かせた。(昨年の屈辱を果たした)

準決勝 千歳3-0日大二高

大接戦だったがスクラムトライで勝った。

決勝 千歳3-15保善

今度こそはと臨んだが保善は我々以上上達していた。又も当り負け、そのうえ、バックに走られた。残念!!タックルが甘い、相手のコースを押さえられなかった。(伊集院、片倉、石塚がオール東京に選抜され松山に遠征した。)

[日体大に勝つ]

国体予選で負けてからも八幡山明治通いは続いた。全国大会に備えての、日体大との練習マッチで勝った。さあ打倒保善だ。

[全国高校ラグビー東京予選](記事-E)

2回戦 千歳35-0荏原

(順当勝)

準々決勝 千歳21-5法政一高

FWの押し勝ち

準決勝 千歳19-5日大二高

FW元気、中村、安部、石塚、片倉トライ

決勝 千歳3-8保善

自陣ゴール前のスクラムでマイボールをとられた後のディフェンスが遅れ先にトライされたのが痛かった。後半中村がノーマークでトライしたがブレスキックのボールが倒れてゴール不成功になったのが残念。後半終始押しはなしのもう一歩だった。落ち着いてここ一発これで決めるという力が足りなかった。試合に勝って勝負に負けた。

保善は、我々十期が負けるまで、5年間千歳に勝てなかった。打倒千歳の高崎米吉先生と荒井先生の執念に負けたのかもしれない。保善は全国大会で全国優勝を遂げた。「おめでとう」。

(安部、吉田、菅井、貴島、石塚、中村がオール東京に選抜され静岡に遠征した。)

新チームのスタート時点は部員11名の弱少チームが全国優勝したチームと対等に戦えるようになったのは、石塚キャプテンを中心に、皆んなで全国大会に出場しようという情熱をもったからではないだろうか。

残念ながら全国大会に出場することは出来なかったがここまでこれたのは諸先輩方のお陰だ。特に…

- ・体力づくりの森川先生
- ・考えるラグビーの早稲田ラガー
- ・前へ前への突進ラグビーを一緒に練習してくれた明治ラガーと北島先生
- ・ラグビーの基本と戦略の伊集院浩さんは忘れられない。

十一期に全国大会出場を託して、片倉は早稲田、伊集院は明治、安部は立教、渡辺は学習院の大学ラグビー部に入り、貴島は実業団の東横ラグビー部に入った。梨本は立教、小倉は早稲田、石塚は明治に進学し、菅井は第一生命、齋木はシーホルスタイン商會に就職した。

卒業してから42年、冥府に先だった菅井、石塚、片倉、松下、早野のチームメイトと諸先輩の冥福を祈る。

# 保善、全勝で優勝

## 関東高校選抜ラグビー

関東選抜ラグビー選手権大会は、二月一日午後二時から東京ラグビー場で開演し、保善の戦力が活躍して優勝した。成績は次の通り。

準優勝 保善 〇―〇 林 一

三回戦 保善 〇―〇 林 一

四回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。保善は、前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

五回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

六回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

七回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

八回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

九回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

十回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

〈記事B 昭和28年3月2日付 日刊スポーツ〉

# 保善、大泉らの勝利か

## 東京選抜高校ラグビー第二週展望

東京選抜高校ラグビー選手権大会は、二月一日午後二時から東京ラグビー場で開演し、保善の戦力が活躍して優勝した。成績は次の通り。

準優勝 保善 〇―〇 林 一

三回戦 保善 〇―〇 林 一

四回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

五回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

六回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

七回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

八回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

九回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

十回戦 保善 二―〇 Wはポルトガルと対戦したが、保善は前半から優勢に戦い、後半にはポルトガルを打ち破り、二―〇で勝利した。

〈記事A 昭和28年2月17日付 日刊スポーツ〉

# 大泉に惜敗す

## 巨漢片倉の健闘光る

去る二月二十五日より、「都高校ラグビー新人戦」が行われた。出場した本校ラグビー部は二勝一敗の成績を収めた。

○第一回戦 二月二十五日 於日本大グラウンド

千原 41 2021 〇 日大三 100

【戦評】本校は、ゴール、トライを積み、圧倒的に大勝した。練習場に勝る千原の加力は顕著である。

○第二回戦 二月一日 於日本大グラウンド

千原 3 313 16 大泉 013

【戦評】この試合本校は、終始大泉陣内で試合を進め、T、W型本のトライを通り。

○第三回戦 二月八日 於日本大グラウンド

千原 26 910 〇 明治学院 910

【戦評】対大泉戦で勝てる試合に負けた本校は、この日大いに奮起して、本陣より、片倉の活躍が二回と走り、よく走り、よく蹴った。

○第四回戦 二月八日 於日本大グラウンド

千原 26 910 〇 明治学院 910

【戦評】対大泉戦で勝てる試合に負けた本校は、この日大いに奮起して、本陣より、片倉の活躍が二回と走り、よく走り、よく蹴った。

この試合本校は、終始大泉陣内で試合を進め、T、W型本のトライを通り。

【後記】大会前に、試合経験の少ない者が多いので心配されたが、予以外によく戦ってくれた。

特にFW片倉の活躍は素晴らしい。今後の役に寄せる期待は大いである。対明治学院戦の時のように全員がよくまわれば、全国制覇も夢ではなからう。

〈記事C 昭和28年2月21日付 日刊スポーツ〉



## （ 第 10 期 ） 同期生からのことば

日比野さん 片倉と一緒に又プレーをしよう

先日、お願い致しました「片倉を偲ぶ」につきまして、早速のご執筆有り難うございました。

本日拝読させて頂き、高校時代片倉と一緒にプレーした野球とラグビーが鮮烈に思い出されます。

私達は千歳高校に入学と同時に野球部に入り、片倉は投手として私は内野手として甲子園を目指しました。軟球と硬球の違いに戸惑いながらグラウンドの整備、ボールの綻びの繕い、球拾いをしながらの猛練習でした。

夏は4回戦まで進みましたが、秋の新人戦は2回戦で大敗しました。片倉がファーストで私はショートでした。

この敗戦で私は野球を諦め、1年生の9月に「汝男ならタックルの味を知れ」とラグビー部に入り花園を目指しました。この時片倉と一緒にラグビーをやり花園に行こうと誘いましたが、「俺は千歳の野球を強くし甲子園に行くんだ」と断わられてしまいました。2年生のとき片倉と同じクラスになったのを幸いに、春と夏は野球を、秋と冬はラグビーをして体と鍛えることが野球のためになるからと、ラグビー部に引きずり込んだのが、2年生の10月でした。

これから片倉のラグビーが始まったのです。そしてハマックのです。

日比野さんとは、1月の新人戦で大泉高校と対戦し100ヤードの独走を二回もされ負けた時が出会いでした。お陰で新人戦リーグは2位になってしまいました。

それから私達は早稲田と明治のラグビーを勉強し、特に早稲田では相馬さん水野さん岸澤さん矢口さん竹尾さん山本さん、明治では北島先生、和田先生、伊集院さん、そして現役の皆さんにお世話になり、歴代最強と言われるチームが出来ました。

しかしながら花園を目指した全国大会東京決勝では、創部以来一度も負けたことのない、保善高校の高崎米吉先生と荒井ブー先生とフィフティーンの打倒千歳の執念とパワーに8対3で負け、保善の全国大会初優勝を助け高校ラグビーが終わりました。

昭和29年、片倉は早稲田大学のラグビー部に入り日比野さんとチームメイトになり、私は東横百貨店のラグビー部に入り、大学と社会人それぞれのラグビーを始めました。

その後東横百貨店は全国大会で通用するチームをつくることにし、全日本級のプレイヤーを獲得することになりました。

片倉と日比野さんが一緒に入ってくればと期待したのですが、片倉は日野自動車に行き一緒にプレー出来ず残念でした。

日比野さんが入り東横百貨店はフォワードが3割りボールを取れば

勝てる、バックスのチームに大変身し、関東では敵なしになりました。私も一緒に高校時代から学んだ早稲田ラグビーの神髄を満喫させて頂きました。

片倉の合宿と岩井の別荘の苦しく楽しかったこと、横河電機・谷藤機械・東芝府中・日野自動車・京都市役所・近鉄との試合などが懐かしく思い出されます。

特に日野自動車の片倉の勇姿は忘れられません。

片倉の入院を聞いたとき、思わず我が耳を疑いました。

やっと九州から帰って来たのに、同期会で元気にはしゃぎ、同窓会では少年スポーツの振興と育成について講義したのに、今度ゆっくり飲もうと約束したのに。

「本人には知らせないがガンだって」同期の小倉が不惑クラブの仲間に関き知らせてくれました。

病院に小倉と一緒にお見舞に行った時、青白い顔で息子さんのお嫁さんに足をさすってもらいながら、それでも元気な口調で「足が痺れるんだが、リハビリせにゃいかんと」両腕を振りながら「俺は治ったら、世界に通用するラガーを育てるんだ、それには体力、気力、技術、そして少年時代から培われた経験と勘が大事だ。そのために少年ラグビースクールを全国につくり、少年ラグビーを振興させねばならない」と青年の様に語った「ガタ」の姿が脳裏に焼き付いて離れません。

千歳高校は部員が少なく現在休部中ですが、創部50周年を機に関係者一丸となって復帰出来るよう努力したいと思います。

ご多忙中、千歳ラグビー部のため、片倉のため、有り難うございました。厚くお礼申し上げます。

冥途では片倉と日比野さんと同じチームでラグビーをやりたいとももいます。

貴島幸一

### 熱き闘い

在学中は野球部とラグビー部に籍を置いた。ラグビー部へは2年生への進級時期に、部からの誘いと野球部から転籍していた貴島君のアドバイスが有って、巨漢片倉君(元全日本代表、故人)と共に入部した。楕円形のボールを扱うのは初めてで、ドリブルに限らず両手に依るボールコントロールも假ならず、走りのスピードアップ、タックルの厳しさ等毎日、夜を日に継いで泥まみれの練習を行った。幸い、諸先輩のご指導と猛練習が実って左ウイング(No.11)のポジションが与えられ、初試合(大泉高校との練習マッチ)での初トライの感動は忘れられない思い出になっている。

最上級生になってからの練習は一段と厳しく、特に大会が近づく到校庭での練習後、明大合宿所の八幡山グラウンドまで駆け足し、北島先生(元明大監督、故人)の号令で、明大3軍チーム(全国から集まった優秀な新人メンバーに2~3名1軍選手が加わる)と練習マッチをやら

せて頂いた。我がチームのフォワード・バックス一体となった前への突進の強さは、この練習マッチで養われたし、時たま1-2点差で3軍チームに勝つ事が有って大いに自信を深めることが出来たのである。

昭和28年秋、全国高校ラグビー大会出場を掛けて東京都大会の決勝戦を保善高校と戦ったが、3対8で破れ大変悔しい思いをした。今でもラグビーシーズンになると当時の事が思い出され、熱くなるのである。

梨元柳三

#### 10期 石塚キャプテンを偲ぶ

1989年6月、1人の男がこの世を去った。10期生のキャプテンを務めた石塚俊男君である。かなり以前から心臓を悪くしており常時ニトログリセリンを持ち歩いていた。その日栃木県内で行われたゴルフコンペのラウンド中に倒れ、そのまま不帰の人となってしまったのだ。ニトロを家に置き忘れたまま出掛けたらしい。

彼は口数が少なく、他のやかましい部員達とは違って物静かな男であった。にも拘わらず何故か強いリーダーシップで皆んなを引っ張りまとめていく力を持っていた。典型的な卒先重砲型の武将だったと云えよう。第二期黄金時代を築いたのは勿論部員一人ひとりの努力もさることながら、キャプテンとして彼の果たした功績は大きい。

プレー面では名センターとして鳴らし、国体東京都予選準々決勝の城北高校戦では、当時としては大学、社会人でもめったに見られないドロップゴールを決め(現在ではめづらしいことではないが)、世間をアッと驚かせたものである。そのまま、大学、社会人で順調に行けば、或いは日本代表のメンバーに名を連ねていたかも知れない。残念ながら体調を崩してしまった。

数年間に一度の割合で会ったが、「久しぶりだね。元気かい?」と聞くと「いや、体の調子はあまりよくないんだ」との返事がその都度返ってきたのを思い出す。特に心臓を悪くして殆どのスポーツと縁が切れたようだ。

彼は愛妻家であり、奥様の絃子さんをこよなく愛していた。彼女もまた然りで相思相愛の夫婦であったことが伺われる。

彼女は云う「朝早くゴルフに出掛けたままでいまにも「ただ今!!」と帰ってくる気がしてならない」と。また「亡くなって何年も経っているのにいつも私を見守ってくれている視線が感じられ無事に毎日を過ごしています。」と。

彼の訃報は正直ショックであった。キャプテンは部員全員を見送ってから最後に逝くものだ。僕等、そして最愛の奥様を置いてあまりにも早く逝ってしまうとは無責任だと思ったりもした。しかしこれも運命で仕方ない。

千歳高校3年間ラグビーで燃えた男、我等のキャプテン石塚俊男君の冥福を心から祈ってやまない。

小倉光雄

#### ワールドラガー片倉胖

スクラムセンターの経験者ならば、胸が厚くて肩巾の広いロックがサ骨を当てて上に突きあげる様にプッシュしてくれる程有難いことはない。しかも田亀の様な力で右フッカーとセンターの両尻をしめあげてくれれば、マイボールはおろか、敵ボールにまで侵略の足が伸びるというものである。3年生で165cm、56kgしかなかった私は、170cmをこえる右フッカーの安部に左肩を大部せり出してバックしてもらい尻の線を右ロックの片倉に合わせた。ボールインの掛け声と同時に私の背筋はハガネとなって後頭部が相手の胸部を圧迫し、相手の首が直角より曲がって下向きになった分だけボールの位置が私に近くなる。つまり、左右のきついロックが片倉の強い押しをセンターの私に集めた分だけ私の体重は増して、敵にのしかかるのである。

準決勝まで楽だったフッキングも決勝戦の対保善高校戦では五角以下だった。それでも、支配率の低いマイボールを生かして、後半の反撃に入るや、徐々に保善を防戦に追い込み、終了間際TBのパスを受けた片倉の突進で、25ヤードを越えたかと思えたときのことを考えると今でも寒肌が立つ。

ボールを貰えばノーマークの好位置にフォローする「松下」、なぜ声を出さない「片倉、左をふり向けっ」一団遅れて追走する我々の前方でついに片倉がつかまる。熊蜂のような黒と柿色のジャージのもの凄さ。

「松下、なぜ声を出さなかったんだ」

「出しましたよ」

「なんでもっと大声出さなかったんだ」

「いいましたよ、大きな声で。言ったんですよ、まわせ、まわさせて」

話の続きを今ごろ、石塚、菅井の四人でしていることだろう。

「オレも入れろよ」と話に入りに行く日も遠くない年になってしまった。

日本に来た豪州他各外国チームの監督が「一番印象に残った選手は?」と聞かれて、「片倉だ」と言った記事を見た時はうれしかった。その彼も一九九五年三月、天国へ突進してしまった。

伊集院洋介

有難い時に生を受けて六十才はまだまだ壮年の元気で大半の書が過ごせる時代です。

私には悔いの多い青春でしたが、あの輝いていた時を懐かしく思い出そうような日々が訪れる年になりました。

御指導いただいた諸先輩、共に走りまわった後輩達、筆に尽させぬ思いが次々と重なります。苦楽を共にした13名の同期生のうち四名が故人になられ、この度誠之会会長となられた赤根先輩、同期貴島兄と石塚君の骨を拾ったのが昨日のように思い出されます。

同期生のうち私が消息を知らない二名の方を除いた六名の方は

特別お元氣な御様子うれしきぎりです。

時の差があっても縁あって、同じクラブで青春を過ごした皆さまのご健康、ご多幸を願っています。

齋木朗

ラグビー部創部五十周年、おめでとうございます。ここに記念誌に一文という事で、つたないながら、部との係わりを、記してみたいと思います。思えば四五十年前、当時ラグビー部は関東地区では一、二位を争う強いチームであり入学した女生徒は少なからず、憧れを持った様です。昭和二十六年八月一日より八日間、箱根仙石原にて合宿がある事を聞くと矢も楯もたまらず参加させて欲しいと、顧問の森川先生にお願いしました。しかしその時代は女子が男子だけの合宿に参加する事は好ましくないとの理由で断られました。純な気持ちで？オサンドンを申込んだのにと、ハラの虫がおさまらず当時の降旗校長に直談判。サッスガ！一人では駄目だがもう一人いればOKとの事、やっとう一人の女子鈴木淑子さんとの参加を許されました。

オナリサン300ヶ、肉のあまり入っていないカレーライス、メリケン粉の団子のお汁粉等。一週間、一日二食、食べ盛りの男子三十数名の食事を、まだ家事のことも満足に出来ない十六才の女子二名、我ながらよくやったなあと思います。

「我が青春に悔いはなし」。高校に入学し初めて見たラグビーに感動を覚え、胸をときめかした日々。物には恵まれなかった時代でしたが、何ものにもかえがたい友情を得た。千歳高校ラグビー部よありがとう。そして千歳ラグビー部よ永遠に……。

ZANBAこと上杉洋子

### 創部五十周年を祝う

私が関東随一の強さを誇る千歳高校ラグビー部に入部したのは、木造二階建ての校舎と公式グラウンドとしても使用可能な位に広い校庭に、ゆらゆらと陽炎の立つ様な合格発表の日の午後であった。

中学校三年の時に始めたラグビーのとりこになり、その年関東を制覇し関西遠征を果たした千歳高校でプレーしたく、入学を憧れるのは理の当然であった。

このラグビー部のロータックルと、キック&ラッシュを主体とした壮絶な戦いごまは、部内はおろか、関東一円にその勇名を轟かせたものであった。十期生として入部した新人の私と菅井啓之は、半日早く入部した伊集院や石塚、野球部から転部して来た貴島、梨木、片倉、小倉、安部等と共に、その名声輝く千歳ラグビーの一員として、栄誉あるスタートを切ったのであった。

我々が過ごした三年間は、その最終学年時における強さはデータに任せる。新人戦は一敗のみ。憲法大会は全勝。第一回関東大会出場。国体では全国大会の都予選に準優勝と結果のみ記しておく。

以後、大学ラグビーや社会人ラグビーへと殆ど全員が何等かの形で関わったのであった。即ち、自らの長く続いたラグビー生活の基盤が、千歳ラグビーにその拠り所があったと言っても過言ではあるまい。

特に、社会人ラグビーに於ける当時の代表的チームであったと自負する、私と片倉の所属した日野自動車、貴島がスタンドオフとして活躍番しい東横百貨店は、国体や関東代表の座を争い、シーズン毎に少々オーバーに云えば神鋼とサントリーの様の没収試合寸前のすさまじいゲーム展開に火花を散らし合ったものであった。

私の盟友菅井啓之は、第一生命チームのハーフバックとし主将格の活躍をしていたのであるが、地方勤務を余議なくされ福井県に転勤していった。たまたま、福井国体の県チームの主将として練習を積んでいた。

「福井に遊びに来いよ」と会社に電話があった一週間後に、交通事故によって一命を失うと云うアクシデントが発生した。

電話の声は明るさに満ち満ちており、わずか一週間後の死を想像することは不可能であっただけに、現在に至る迄残念でならない。

十期生は、菅井を始めとして石塚を心臓発作により失い、全日本代表として勇名を馳せた片倉を癌に失うという不運を負って還暦を迎えた。それだけにCRC副会長へ小倉と貴島の二名を送り、クラブ全体の和と向上を図りつつある現在に感慨深いものがある。

私と菅井啓之は、小中高を通じ無二の親友であり続け、ラグビーと云う格闘技と共に、その青春の情熱を傾け続けたのである。

以後、私も病を得て半身を不自由になっているが、それだけに我が千歳ラグビーが五十年の礎を打つ事に深い想いがある。

創部にかかわった先輩方と、関東代表として花開いた先輩方へ、限らない感謝を捧げると共に、志半ばにして物故されたクラブ員の方々に深甚なる哀悼の意を表したい。

創部五十周年にあたり、我が母校に大きく期待する事は出来ないかも知れないが、ラグビーというものが持っている力強さと、ジェントルマンシップは、我がクラブに脈々と受け継がれて更に未来へとバトンタッチしていただきたいものだ。

我がクラブが、一般のいわゆる同好の士の集いと大きく異なる点は、府立十二中から千歳高校へと共通のグラウンドで汗し、涙し、つらさを共有している点であろう。その輝かしい歴史の中に、十期生の仲間、死んだ菅井も石塚も片倉も点の様な存在ではあるが、千歳ラグビークラブを自らの心の拠り所として残された生を全うし、早世した彼等の為にも永くこのクラブの存続と繁栄を祈りたい気持ちで一杯である。

渡辺真介